

授業概要

子どもの身体表現を理解するために、まずは学生自身が多くの表現を体験して、リズム感を高め、柔軟な身体づくりを心がけ、保育者としての資質を向上させることが必要である。幼児教育における「身体表現」のねらいを把握し、幼児がリズムカルな身体活動を楽しみ、情緒豊かに育っていくために、多くのグループ活動によって、ダンスの創作・指導ができるように、実践的な授業を指導する。（オンライン授業が入る場合は、開始後にシラバス変更の場合あり）

授業計画

第 1 回	ガイダンス、幼児教育における身体表現、① 簡単なリズムで動く
第 2 回	身体表現② 曲のイメージを表現する
第 3 回	身体表現③ ステップの組み合わせ
第 4 回	身体表現④ リボンを使って、大きく動く
第 5 回	身体表現⑤ 集団で動く フォークダンス
第 6 回	身体表現⑥ リズムダンスの組み立て、フォークダンス
第 7 回	表現遊び① 動物になろう 動物体操
第 8 回	表現遊び② オリジナルの動物体操を作る
第 9 回	表現遊び③ 物語の主人公になって動く
第 10 回	実技テスト スキップ、ツーステップ、ギャロップなど
第 11 回	グループ分け 創作準備（課題曲や振付検討）
第 12 回	グループ発表準備 創作
第 13 回	グループ発表準備 展開
第 14 回	グループ発表① 相対評価
第 15 回	グループ発表② 相対評価
第 16 回	舞台発表の振り返り 自己評価&相対評価をふまえて

到達目標

- ・ストレッチ、遊びの体験、リズム運動、創作表現、遊具制作等を通して指導力を身につける。
- ・多くの体験学習によって、振付や踊り、表現への抵抗感をなくし自ら楽しく身体表現ができる。
- ・グループでの創作や発表を通じて協働性を身につけ、自己表現ができる。

履修上の注意

- ・全回出席を原則とする。見学は不可、事情がある場合は相談のこと。
- ・遅刻は 20 分までを認めるが、それ以降は欠席とする。遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとする。
- ・全ての回で運動に適した服装・身だしなみで受講する。胸に A5 サイズの名前ゼッケンをつける。
- ・初回から用意するもの：体操着（ジャージ）、A4 サイズのノート（40 枚綴り）、A5 サイズ名前ゼッケン、はさみ、のり、セロテープ、折り紙 1 袋。

予習・復習

予習：シラバスを確認。講義で利用する楽曲の歌詞を覚えておく。歌詞不明な部分を各自で調べておく。
 復習：授業内容をノートに記録して「将来の自分のためのテキスト」を作っていく。配布したプリントをノートに添付、教材の童謡の歌詞や由来を補足、補助教材（折り紙や小道具）の作り方を明記、感想や評価を記録。

評価方法

授業内小テスト 10%、レポート課題 70%、受講態度 20%とする。
 レポート課題とは、リアクションペーパー、記録ノート、模擬指導案、授業内でのグループ発表を含む。

テキスト

教科書：文部科学省『幼稚園教育要領』
 プリントを配布する。
 参考文献：『子どもの運動・表現遊び』 宮下恭子編 大学図書出版